

結婚生活と鳥取

第9期大学院 OB 白石 秀壽

2018年6月3日。結婚式と披露宴、そして中華街での非公式2次会を終えて、妻とクルーズ船でディナーを楽しんだ後、横浜市中区所に婚姻届けを提出し入籍しました。結婚式から非公式2次会までの様子は小野ゼミ HP のイベントページを参照して頂ければと思います。結婚式については、10期OBの石井隆太君と中村世名君がおもしろおかしく記事を作成してくれたおかげで、書くことがなくなってしまったので、今回は妻との出会いとそこから気づいたことについてお話したいと思います。ちなみに、記事には一切の脚色もなく、事実がありのまま書かれています。一部の参列者の間では、小野ゼミOB・OGの盛り上がりは大変な評判でした。どんな評判かは読者の皆様のご想像にお任せします。



結婚式での1枚

さて時間は遡って、2016年3月。僕は鳥取大学に着任しました。ですので、結婚を報告すると、「相手は鳥取の人ですか」とよく聞かれるのですが、違います。妻は横浜出身で東京に住んでいます。「では、鳥

取に来る前から付き合ってたんですね」と返されますが、それも違います。鳥取に来てから付き合いました。もっと言えば、鳥取に引っ越し一週間前に出会いました（色々ツッコミどころ満載です。質問は受け付けません）。そして鳥取の人からは「奥さんはいつ鳥取に!？」とせっつくように聞かれますが、それは決まっています。しばらくは鳥取と東京の別居婚を続ける予定です。そう答えるたびに残念そうな顔をされます。きっと鳥取県の人口が増加することを期待していたのでしょう。

そんな少し変わった出会いをして、特殊な結婚生活を送っていて、1つ気づいたことがあります。それは、意思決定の積み重ねによって偶然的に人生が決まっていくということです。30才までに結婚しようと考えていたわけではありませんし、鳥取大学への着

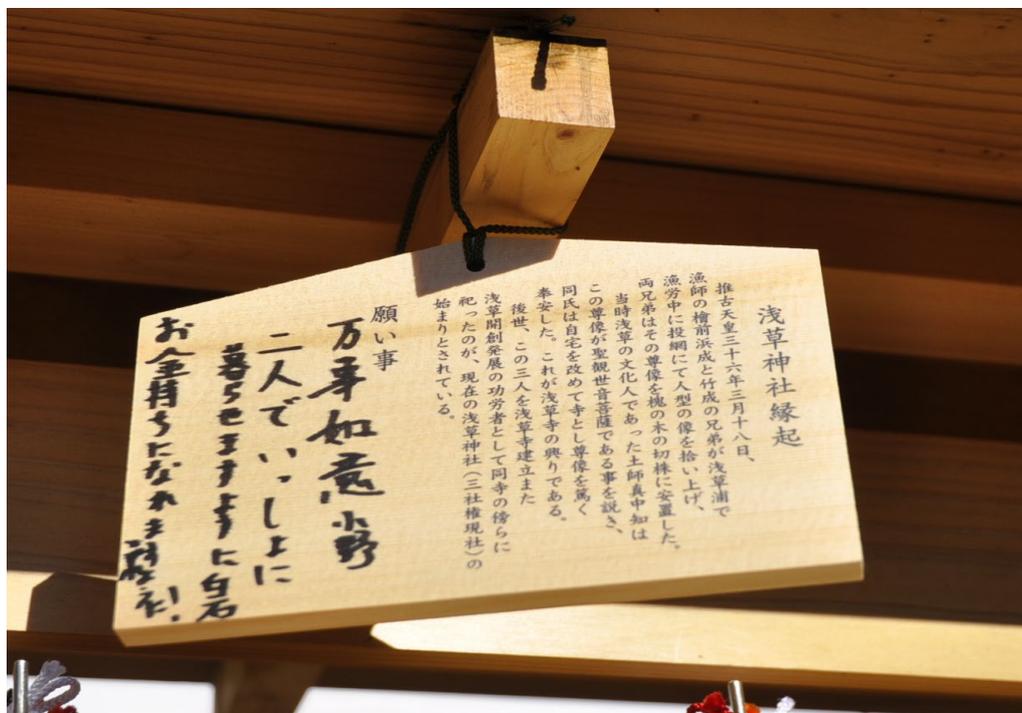


新年会にて

任が決まってから婚活をしたわけでもありません。ただ偶然にも出会いの機会があり、何だかんだで付き合うようになり、結婚に至ったのです(「何だかんだ」は「何だかんだ」です。質問は受け付けません)。「自分は結婚しない/したくない」という人もいます。しかし、そんな人でも数年後には結婚しているかもしれません。もちろん僕がそうだったというわけではありませんが、別居婚という形をとるとは思ってもいませんでした。思い返せば、高校時代にバスケットボールしかしてこなかった自分がまさか大学教員になるなんて考えたこともありませんでした。もしバスケットボールを続けていたら、マーケティングのゼミを選ばなかったら、大学院に進学しなかったら、どこかで別の選択をしていたとしたら、あの時あの場所で妻と出会うことはなかったかもしれません(「あの時あの場所」は「あの時あの場所」です。質問は受け付けません)。風が吹けば桶屋が儲かるではありませんが、僕が結婚できたのは、バスケットボールを続けなかったからであり、マーケティングのゼミを選んだからであり、そして大学院に進学したから(こんな風に原因を挙げていくとスペースがいくらあっても足りません)であると言えるかもしれません。何年何十年か後に、今鳥取に住んでいること、そして鳥取大学地域学部でマーケティング論を教えていることが何かにつながるのかなと思って、明日は小野先生と久保先生と鳥取地域学(?)ヒアリングに行きます!

就職後、初めてエッセイを執筆しました。来年以降も執筆することを誓って、この辺りで筆をおきたい

と思います。来年のエッセイは「孤独ランチ：三田編」につづく、「孤独のグルメ：鳥取編」をお送りします。



絵馬に願いを...



御手を拝借！